

2002年4月23日

FASID 国際開発研究センター参与 秋山 孝允  
訳：FASID 国際開発研究センター主任 大原 淳子

### 開発援助の新しい潮流：文献紹介 no.1

*The World Bank, The Role and Effectiveness of Development Assistance: Lessons from World Bank Experience (2002年3月出版)\**

このペーパーは、世銀のエコノミストらによってモンテレー国連開発資金国際会議のために執筆されたものであり、その趣旨は、世銀は過去の経験から学んでいるので援助資金がより有効に使われるようになったということである。援助効果について非常に楽観的に書かれている。このペーパーは明らかにアメリカ、特にオニール財務長官に向けて書かれている。就任以来のオニール氏の世銀の貧困削減政策に対する批判および援助の無駄についての指摘は有名である。興味深いことは、文中、「冷戦の終焉に伴って冷戦戦略とは無関係に援助戦略が立案されるようになり、その結果援助がより有効に使われるようになった」という趣旨の文が数回繰り返され、暗にアメリカの援助政策が批判されていることである。他方、世銀に関しては自画自賛的になっている。このような論法の欠点は、分析があまりにも世銀中心になってしまっていることで、「援助が効果を上げ始めたのはすべて世銀のおかげである」という印象を読者に与えかねないことである。また、近年貧困が削減されつつあり、発展途上国で高い経済成長が見られることが述べられているが、これには人口および GDP が高い中国とインドが多分に寄与しており、これらの国では GDP に対して援助の比率が非常に小さいことを考えると、援助がどれだけ貢献したかは疑問である。このペーパーの内容全般および結論に関して言及すれば、1998年に同じく世銀から出版された *Assessing Aid* (邦訳『有効な援助』) とほとんど変わりが無い。すなわち、援助は政策がしっかりして制度がある程度整備されている国でなければ有効に活用されないということである。冷戦後、援助の対象はこのような国に向けられており、それゆえに援助がより効果を上げている。また、*Assessing Aid* との大きな違いは、*Assessing Aid* では援助の有効性を回帰分析という計量経済学的手法を使って分析したのに対して、このペーパーではタイトルが示すように主に世銀で行ったプロジェクト評価を元に議論しているということである。このペーパーの執筆にあたり采配をとったのは、スティグリッツ氏の後、世銀チーフ・エコノミストとなったニック・スターン氏である。スターン氏にとっては最初の重要なペーパーであるが、文中、*Assessing Aid* あるいはその主執筆者の Dollar 氏や Prichett 氏の名前が出てこないのは少し奇異に思える。

### 主な内容

- この数10年間における世界の発展は前例がなく、特に保健（過去40年間に途上国における平均寿命は20年増加した）、教育（過去30年間に非識字率は47%から25%に減少した）、貧困削減（過去20年間、最貧困層の割合は徐々に減少してきており、特にインドと中国でこの傾向が強い）といった分野については目覚ましいものがあった。発展の代表的な成功例としては、中国、インド、モザンビーク、ウガンダ、ポーランド、ベトナムなどが挙げられる。その最大の理由はこれらの国における経済成長であったが、これらの国の成長は偶発的に起こったものではなく、政府、国際援助コミュニティ、NGOの努力によるところが大きい。
- しかしすべての発展途上国が成長したわけではなく、アフリカや1990年代の東ヨーロッパおよび中央アジアでは発展が見られなかった。今後の課題はこれら

の国がいかにして発展していくかである。

- 過去を振り返り、反省すべき主な点としては、(1)冷戦下で援助が主要国の戦略的  
目的のために利用され、貧困削減が重視されていなかったこと、(2)個々のプロジ  
ェクトに重点がおかれ、被援助国における成長のための環境の質が無視されてい  
たこと、(3)構造調整貸付が被援助国のオーナーシップを無視して実施されていた  
こと、(4)マクロ経済および貿易政策の改革とともに対処されなければならなかつ  
たガバナンス、制度、社会投資などの問題が過小評価されていたこと、などが挙  
げられる。
- これらの過去の反省から、最近の援助はより選択形式で行われるようになり、ガ  
バナンス、制度、オーナーシップを重視し、各国、各地域のニーズに注意を払っ  
ている。ゆえに援助資金は以前よりもより有効に使われるようになったが、政策  
が弱く制度が未整備でガバナンスに問題がある国への援助をどのように行ってい  
くかについては、未だ明確な方針が立てられていない。
- 過去の経験から分かったことは、貧困削減にとって重要な要素は投資が容易に行  
われるような環境を作り出すこと、また貧困層に政治的な力を与えたうえで投資  
を行うことである。また貧困削減を目標とした政策、特に教育と保健の分野での  
取り組みが貧困削減に有効であることも分かった。
- 援助を行うにあたって重要なのは、援助の量（援助拠出額）だけでなく、援助効  
果の分析、援助受入国側へのアドバイス、キャパシティ・ビルディングなどを行  
うことである。これは援助が有効に働いた多くの国において、国家の全財政支出  
やセクター別の支出に占める援助額の割合が小さいことから分かる。貧困削減  
は、援助額の大小に関わらず、プロジェクトの全セクターへのデモンストレーシ  
ョン効果を通じて実現される。
- 統計分析によって、援助は成長および貧困削減を促進させており、またその貧困  
削減に対する影響力は大きくなってきていることが判明した。しかしながら近年  
援助は減少傾向にあり、2001年の援助は1990年と比較して実質20%減  
少している。その一方、最近援助はその効果を上げている。特に第2世銀（IDA）  
の援助は有効的に行われており、IDAの援助は1990年より60%、また全ODA  
と比較して50%も貧困削減効果が大きい。IDAの援助が有効であるのは、FDI  
を含めた民間セクターの投資の促進によるところが大きい。
- 今後の重要課題はいろいろあるが、政策および制度が脆弱な国に対してどのよう  
に援助を行っていくか、また、政策および制度の改革における選択ならびに優先  
順位の問題などが挙げられるだろう\*\*。

\*同書は世銀のウェブサイト（<http://www.worldbank.org>）にてダウンロードできる。

\*\*これらの問題への世銀のアプローチに関するペーパー*Low Income Countries Under Stress*が2002年3月に世銀より出版された。